

平成 29 年度中央区まちづくり事業報告

平成29年度事業報告（総務企画課）

中央区魅力発信事業

1 事業実施内容

① まちづくりセンター通信 ※5区協同事業

地域および各種団体等が主体となって取り組んでいる様々なまちづくり活動や、地域担当職員の地域における活動を紹介。

平成29年10月から「くまにちすばいす」へ毎週掲載。

② 中央区 trip

中央区にある電停にスポットを当て、市電を使った手軽な小旅行を提案するリーフレットを作成・配布。熊本地震後の中央区の今を、中央区内外の人に発信した。平成30年2月発行。

2 最終予算 2,600,000 円

3 事業の成果

① 平成29年10月から、毎週1回発行。

「まちづくりセンターについてはじめて知った。」「自治会の活動に役立つ」など読者の声は好評であった。



- ② 5,000部作成。行政施設、金融機関、宿泊施設等に設置。
中央区内外の方に中央区の今の情報を発信し、興味や愛着を、深めて
もらうきっかけとなった。



4 次年度に向けて

- ① 目的とターゲットを再度明確にし、改めて委託業者を選定し継続実施。
(地域政策課)
- ② 次年度は、まちづくり事業提案にあがった「ウェルカム中央区」のパンフレットを作成し、中央区への転入者を対象に配布予定。次年度以降も、様々な媒体を活用し中央区の情報発信に努める。

平成29年度事業報告（総務企画課）

中央区スポーツ交流事業

1 事業実施内容

「第1回熊本中央区親善グランドゴルフ大会」を実施

日 時 平成29年11月5日（日） 8:30～

場 所 熊本大学大江グランド

主 催 熊本市中央区体育協会・熊本市中央区役所

その他 中央区管内の14校区から24チーム、約150名参加。

2 最終予算額 300,000 円

3 事業の成果

- ・中央区民、校区間の交流が図られた。
- ・大会の運営に当たっては、中央区スポーツ推進員の協力が得られ、また、熊本大学からのグラウンドの無償提供、中央区管内の企業からの商品の提供など、地域が一丸となり大会を盛り上げる事となった。
- ・住民のつながりができ、区民意識の情勢が図られた。



4 次年度に向けて

継続を希望する声が多く、次年度もグランドゴルフ大会を実施予定。
地域スポーツの定着による「区民の心身の健康増進」にもつなげる。

平成29年度事業進捗状況（総務企画課）

中央区地域コミュニティづくり支援補助金

1 事業実施内容

魅力あるまちづくりを推進するため、校区自治協議会や町内自治会等が主体的かつ継続的に行う、様々な分野の地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けた取り組みを財政的に支援する。また、熊本地震による地域の復興にも役立てる。

① 応募（企画提案）できる団体

・校区自治協議会 ・校区自治協議会の構成団体 ・町内自治会

② 補助率及び補助金の額

補助対象事業費の1/2以内で、2万5千円以上30万円以内

③ 審査の方法

企画提案会（審査会）により審査し、補助金予算額の範囲内で交付対象団体及び補助金額を決定する。

2 最終予算額 1,645,000 円（委員報酬含む）

3 事業の成果

① 地域の連帯感に基づく自治意識醸成

② 住民の身近な課題解決

③ 地域コミュニティの活性化

応募：18 団体、採択：15 団体 （補助決定額：1,625 千円）



4 次年度に向けて

制度を見直し、この制度の本来の目的である、地域活動のモデルとなるような事業の発掘を促す仕組みを作るとともに、地域ニーズの高い身近な課題を解決するための備品購入等についても支援を続けていく。

《取り組み事例》

【帯山西校区第3町内自治会】 三町内いきいき百歳体操とおしゃべりの会

校区内の幅広い年齢層の健康増進を図るため「百歳体操」を実施。また、体操後は、おしゃべりや意見交換を行う場を設定し、参加者間の交流を促進した。
事業実施のため、DVD プレイヤー、椅子等を購入。



【熊本市消防団第31分団（春竹校区）】 春竹校区における防災力向上事業

熊本地震を経験し、初動期活動の重要性を実感した春竹校区では、機材不足による活動の遅れを改善するため、防災備品・機材を購入。購入物品を活用して校区全体の防災訓練を実施するとともに、春竹校区防災マニュアルを構築。



【大江校区第2町内自治会】 外国人と日本人が助け合える町内づくり

外国人が多数暮らす公営集合住宅では、ゴミの分別など日常生活においてトラブルが発生し、健全な地域コミュニティ醸成を阻害する要因となっている。異文化の相互理解と、平素から国籍を問わず助け合える町内づくりの実現のため、在住外国人を委員に含む委員会を設置し、規約の外国語訳化や、住民に対するアンケート調査、グループミーティングを実施。

平成29年度事業報告（総務企画課）

中央区地域防災支援事業

1 事業実施内容

(1) 中央区親子ぼうさい教室

内容 子ども・保護者向けの防災に関する参加型のワークショップ
 日程 平成29年9月24日（日）10時～、14時～
 場所 サンロード新市街アーケード
 参加者 親子19組（58名）

(2) 中央区そなえる防災講座

内容 風水害、火災や地震など防災に関する講座及びワークショップ
 日程 平成29年9月～平成30年2月まで、月1回（全6回）開催
 場所 くまもと県民交流館パレア
 参加者 1月31日時点 5回開催 参加者延べ140名

(3) 中央区防災支援メニュー

内容 中央区総務企画課防災担当職員による「防災出前講座」「地域版ハザードマップ作成」「新聞やビニールで防災グッズづくり」
 中央消防署と連携した「AED体験・救命救急・消火器体験」
 「自主防災クラブ設立支援」
 日程 通年
 場所 要望のあった地域や団体指定場所
 実績 1月31日時点
 防災出前講座 10回（参加者延べ約500名）
 地域版ハザードマップ作成 7団体（作成中含む）
 校区等防災行事への参加 10回
 自主防災クラブ設立（今年度） 17自治会

(4) 自治協議会長・自治会長合同研修会「校区防災連絡会」

内容 熊本市に先駆けて避難所運営委員会を設立している、千葉市の防災担当職員及び自治会役員の方から、設立時やその後の運営の取り組みなどを紹介。

日程 平成29年10月3日(火)
場所 市役所 14 階大会議室
参加者 111 名

(5) その他(市民防災啓発に係る物品等の購入)

2 最終予算額 3,189,000 円

3 事業の成果

- ① 個人、親子、町内などの防災・減災に役立つ知識の普及
- ② 自助・共助における災害対応力の向上
- ③ 居住地域の災害危険箇所、避難場所等の把握と防災の意識付け
- ④ 地域と行政との情報共有・交流による連携強化
- ⑤ 地域内での「顔の見える関係づくり」の構築による地域の災害対応力の強化



親子ぼうさい教室



そなえる防災講座



地域版ハザードマップ作成



防災グッズ作り

4 次年度に向けて

参加者・校区団体等からの需要も高く、継続して実施予定。住民・地域のニーズを聞き、避難所運営に関する実践型プログラムなどの実施も検討。

平成29年度事業進捗状況（総務企画課）

中央区まちづくり懇話会

1 事業実施内容

区の施策やまちづくりに関する情報の積極的な提供を行い、委員各位の多角的な視点からの活発な協議を実現し、区政に有用な意見を吸い上げる会議体を目指している。

2 最終予算額 540,000 円

3 事業の成果

◆第1回まちづくり懇話会（5月30日実施）



- ・平成28年度まちづくり事業報告
- ・意見交換会 これからの中央区のまちづくりについて、地域担当職員がファシリテータとなり、中央区の特性「のばすところ」「改善するところ」及び「対策」について4班に分かれて意見交換を行った。

◆第2回まちづくり懇話会（8月23日実施）



- 平成29年度まちづくり事業進捗報告
- 意見交換会 中央区の特徴や課題についてのアプローチ
第1回懇話会で出された4つのキーワード「担い手の育成」「電子媒体による情報共有」「マンション世帯の自治会活動への参加」「若者の地域参画」について、グループに分かれて意見交換を行った。
※懇話会委員他、インターンシップの大学生も参加

◆第3回まちづくり懇話会（11月15日実施）



- 平成30年度まちづくり事業について
 - 平成30年度まちづくり事業に関するアイデア提案について
- それぞれの議題について、ご意見、ご質問をいただき、事務局との意見交換を行った。

◆第4回まちづくり懇話会（2月14日実施）

- 平成29年度まちづくり事業報告について
- 平成30年度まちづくり事業計画について

4 次年度に向けて

平成29年度も委員間の活発な意見交換が行われたが、さらに区政に有用な意見を吸い上げる会議体とするために、今後も懇話会のあり方について継続して検討を行う。

平成29年度事業報告（中央区まちづくりセンター）

中央区お宝探検事業（近未来キャラバン）

1 事業実施内容

(1) 事業内容

自治会や企業、店舗を「地域のお宝（魅力）」として位置づけ、子供たちによる取材・撮影・HP作成・地域へのプレゼンまでを地元プロ講師が密着講義することで「企画力」「ものづくりを通しての地域との繋がり」を学びながら地域のお宝（魅力）を発見・発信するもの

(2) 会場 黒髪地域コミュニティセンター

デジタルハリウッド STUDIO 熊本

(3) 実施期間 平成29年7月28日（金）～平成29年10月8日（日）

(4) 実施回数 全5回

(5) 参加者数 小中学生 18名

2 最終予算額 1,050,000 円

3 事業の成果

- ①小中学生の情報発信による子育て世代等への地域の魅力をアプローチ
- ②地域の方々（自治会や企業、商店等）と子ども達のつながり作り
- ③自治会活動の地域への情報発信ツールの形成
- ④キャリア教育のひとつとして地元企業の魅力を子ども達に伝える



自治会長から自治会活動について取材します



地元企業のプロ講師から講義を受けます



地域の魅力的なお店を子ども達が取材します

4 次年度に向けて

全 5 回 の 講 義 が 終 了 し 「 黒 髪 校 区 ポ ー タ ル サ イ ト 」 が 完 成 。
(<http://kurokami-portal.com/>)

- 地域へのプレゼン大会では約 40 名の参加者があり、子ども達の発表により地域の方々への地域の魅力を発信。さらにホームページの公開により校区のみならず全国へも情報を発信。
- 地域の情報発信の手法としてホームページ等のデジタル素材を用いることで幅広い世代への発信が可能となった。今後、ホームページのみならず様々な手法による情報発信のあり方を検討・実践していく必要がある。
- また、近未来キャラバンにおいて多くの企業の参画を受けたところ。ひとつの目的達成に向け学校・企業・行政・地域が連携した事業内容となった。地域課題解決の手法として今回の枠組みの活用も検討を行う。

平成29年度事業報告（中央区まちづくりセンター）

井手の魅力再発見事業

1 事業実施内容

- (1) 事業内容 中央区内を流れる白川や井手への関心を高め、地域のまちづくりに活かしていくことを目的に、平成27年度より、大井手をテーマとした学習会や講演会、パネルディスカッション、大井手沿線の公園でのピクニックといった事業を実施。

平成29年度は、小学生以下の子どもを対象に、「大井手・白川おやこスケッチ大会」を実施。大井手について授業を受けた後、大井手沿いを実際に歩き、各参加者が思い描く大井手を絵に表現してもらった。作品は、イオン熊本中央店にて、優秀作品の表彰式および全作品の展示会を実施予定。

- (2) 日 時 平成30年1月27日（土）
 (3) 場 所 ウェルパルクまもと、大井手（新屋敷界隈）、
 新屋敷公園・大井手沿緑地
 (4) 参加者数 47名（作品数 24点）

2 最終予算額 1,350,000 円

3 事業の成果

中央区を横断する水遺産である渡鹿堰から井手の沿線について、中央区のシンボルとして活用を図ることにより、魅力や関心を高め、校区を超えた区全体のまちづくりへとつなげる。



授業を受けた後、実際に大井手沿いを歩きました。



スケッチを通して、大井手を見つめなおす機会に。



参加者の作品

4 次年度に向けて

平成 27 年度から平成 29 年度まで 3 ヶ年の事業実施により、大井出の機運醸成や周知啓発に一定の成果は得られたものの、今後さらに多くの市民に向け、認知度向上や参加者を呼び込む取組みは必要と考える。

平成 29 年度をもって行政主導の事業としては終了するが、今後は、地域主導の事業にシフトし、学校や地域の環境活動団体等の民間団体との情報共有などの連携、支援を行っていく。

平成29年度事業報告（中央区まちづくりセンター）

中央区地域活性化支援事業

1 事業実施内容

(1) 事業概要

～まちづくりコミュニティ創出事業～

地域にある資産（公用地等）を地域・民間で活用し、普段から利用することで、災害時等の有事の際でも、迅速かつお互いが協力し合える関係性を創出することを目的とした事業。

訪れる方の「普段使い（バリアフリー等も含む）」を考える実証実験としてハンドメイド商品や飲食、地域農産物のマルシェの開催と、まちづくりの手法の1つとして公共空間を活用したエリアマネジメントの講演会を実施予定。

(2) 会 場 白川河川敷緑の区間（大甲橋左岸）

(3) 実 施 日 平成30年3月25日（日）予定

2 最終予算額 2,496,000 円

3 事業詳細

①エリアマネジメント講演

公共空間（公園や道路）を地域で活用したエリアマネジメント講演（仮）

講師 一般社団法人エリアマネジメントアライアンス

株式会社 城東マネジメント 他

②マルシェの実施（白川公園予定）

地元クリーエーターや事業者・個人で制作しているハンドメイド商品や地元の農産物・加工品等の「マルシェ」を開催



※写真はイメージです。

4 次年度に向けて

- ・平成 29 年度の実証実験を基に、地域・事業者主体となって地域資産を活用したコミュニティ創出が出来る仕組みづくりを検討していく。

平成29年度事業報告（中央区まちづくりセンター）

水前寺賑わいづくり支援事業

1 事業実施内容

中央区「水まち水前寺～春・夏・秋・冬～」をテーマに、平成26年度より水前寺界隈の活性化に向けた地域の取り組みを支援する。

水前寺界隈を巻き込んだ祭りを区民と行政が協働して開催。地元小学生や高校生による合唱や演奏会、縁日やバザーなどが催された。また、今年度より、地域PRブースを設置し、自治会や地域団体の積極的な参画を実施。

2 最終予算額 1,300,000 円

3 事業の成果

- ① 水前寺界隈のまちの賑わいを創出。
- ② 湧水と歴史のまち「水前寺」の魅力向上。
- ③ 希薄化している地域住民相互のコミュニケーションの活性化。



4 次年度に向けて

- ・はたらく展示車両（警察、消防、自衛隊）については、今年度も子どもから大人まで好評であった。中央区としても、継続した働きかけを行う。
- ・今年度はまつりを通して地域PRブースを設置。白山校区、出水南校区、出

水校区が参加。（歴史や特産品、校区カルタなどを実施）大変盛況で地域の魅力を再発見できるいい機会となった。

- ・現在、中央区で事務作業をほぼ行っているため（会議議事録や案内文等の作成）、地域主体の取組みに向けた、作業内容や負担金等を整理・検討していきたい。

平成29年度事業報告（中央区まちづくりセンター）

SNS を活用した情報発信事業（復興基金事業）

1 事業実施内容

(1) 事業内容

熊本地震における「復興ミーティング '17」を、今年度春・夏の2回にわたり実施し、参加者から、「地域の防災力をアップしたい」、「(SNS等も活用し、)若い世代も地域の情報にアクセスしやすい仕組みをつくりたい」などといった意見をいただいた。

また、地域からも担い手不足や地域活動への参加者減少などが課題として挙げられている。

そこで必要な情報を必要なときに必要な人に届けるとともに、気軽にまちづくりに関わることができるよう、SNS (LINE) を活用し、利用者の属性情報に基づいたキメ細やかな情報発信を実施する。(今年度末から実施予定)

(2) 開始時期 平成30年3月末より実施予定

(3) 対象者 制限なし(誰でも)

2 最終予算額 4,000千円(復興基金事業)

3 次年度に向けて

- ①平成30年度も引き続き中央区まちづくりセンターが主体となり広報課や政策企画課と連携して事業を進めていく
- ②平成31年度以降は、平成29年度及び平成30年度の効果を検証した上で、本庁担当課に引き継ぐ
- ③いずれにしても、登録者(利用者)にとって有用な情報の提供を行い、登録者数の増加を目指していきたい

平成29年度事業報告（保健子ども課）

からだいいき健康フェスタ

1 事業実施内容

区民の健康増進や交流、親子での健康づくりのきっかけとしていただくため、子どもから大人まで楽しめる健康イベント「からだいいき健康フェスタ」を開催した。

その中では、健康や身体機能チェックに加え、近年、話題の足型測定や小学生への「GAPS（ゴールデンエイジフィジカルスクール）」を実施した。その他、特設会場にて生活習慣病予防に向けた健康づくりコーナーを開設した。

※ GAPSとは・・・最も運動能力が発達する小学校中・高学年期の子どもを対象に正しいフォームや正しい動きを指導し、総合的に向上させることを目的にした教室

- | | | |
|----------|---|--|
| (1) 日 | 時 | 平成30年 1月21日(日) 午前9時～午後4時 |
| (2) 会 | 場 | 熊本市総合体育館・青年会館 |
| (3) 参加者数 | | 午前の部 大人38名・子ども41名
午後の部 大人46名・子ども41名
(当日キャンセル 大人26名・子ども16名) |

2 最終予算額 1,500,000 円

3 事業の成果

話題の足型測定・診断を行い、自己の足の状態を知り、足のケアを学ぶことで健康づくりの知識を普及することができた。また、大人・子どもの部の各種プログラムをグループで実施することにより、区民交流のよい機会となった。

その他、併設の健康づくりコーナーでは、セルフチェックの機会となる歯科相談や簡易血糖検査を実施し、健康増進に関する情報提供・啓発を行った。

(1) 参加者の声

- | | |
|-------|---|
| (大 人) | ・足裏の情報を知り、日常できる健康づくりを提案してもらってよかった。
・久しぶりに子どもと体を動かすことができて楽しかった。今後もエアロビは続けたい。 |
| (子ども) | ・今日のお話から、足のことをもっと気をつけようと思った。
・いろいろなお友達と仲良くできてよかった。
・面白い運動を教えてもらったので続けて記録をのばしたいです。 |

4 次年度に向けて

区民の健康増進や区の活性化につながる一定の効果があったため、次年度は運動を取り入れたより具体的な健康増進の取組みとなる事業を計画。

5 事業の詳細

(1) 足型測定・足型に関する講話

大阪大学大学院特任教授、山下和彦氏の足型に関する講話を親子で聴講した。



(2) 体力測定・GAPS

子どもを対象に7種目の体力測定を実施し、現在の運動能力を確認。さらに運動能力を向上させるために、GAPSなど体験プログラムを実施した。



(3) 健康づくりコーナー

歯科医師による健康相談や簡易血糖検査を実施。親子で健康に関するゲームなどを楽しみながら、生活習慣を振り返るきっかけとなった。

